

文教福祉常任委員会  
所管事務調査報告書

就学前教育・保育について

平成31年3月

## 1. 調査事件名

就学前教育・保育について

## 2. 調査の目的

幼稚園と保育所の現状を調査し、よりよい子育て環境を推進するため

## 3. 調査の経過

委員会・協議会 開催日

平成29年 5月31日 所管事務調査事項の決定

平成30年 3月 8日 委員会 関係部局への事務調査、委員間討議

平成30年 5月16日 現地視察調査(三山木、薪幼稚園)

平成30年 6月18日 委員会 委員間討議

平成30年 9月19日 委員会 関係部局への事務調査、委員間討議

平成30年11月 7日 現地視察調査(松井ヶ丘、田辺、草内、普賢寺幼稚園)

平成30年12月14日 委員会 委員間討議

平成31年 1月30日 協議会 報告書協議

平成31年 3月 6日 委員会 最終とりまとめ

## 4. 調査の結果

(1) 現地視察調査 (平成30年5月16日・11月7日)

幼稚園預かり保育を中心に公立幼稚園6園を視察

三山木幼稚園



三山木幼稚園



現在使用している保育室の一つを代用

薪幼稚園



薪幼稚園



朝は保育室ではなく、絵本などが置かれている廊下で対応

松井ヶ丘幼稚園



松井ヶ丘幼稚園



専用の保育室あり

ジャンボ積木

田辺幼稚園



田辺幼稚園



専用の保育室あり

より一層整備が望まれる園舎

草内幼稚園



草内幼稚園



木のおもちゃなど専門保育室もあり充実している

普賢寺幼稚園



普賢寺幼稚園



専用の保育室はないが、留守家庭児童会の児童との交流がある

現地調査を終え、各園により、専用の保育室がある園とない園、おやつの内容、「にこにこ」など預かり保育の呼称の違い、おもちゃなど、それぞれに違いがあることが確認できた。

保育室など、ハード面・ソフト面とも各園で同じレベルになるように、子ども達の豊かな保育ができる環境整備を市として指導していくことが必要である。

## (2) 所管部署への聞き取り調査

### ① 幼小接続カリキュラム

- ・平成29年度にワーキングチームを立ち上げ、接続カリキュラムを確定し平成30年4月から小学校にサブカリキュラム、9月から幼稚園・保育所にアプローチカリキュラムがスタート

- ・平成30年6月26日 幼稚園・保育園・小学校が集まり交流会を開催
- ・改善策・成果を各小学校で確認中

②就学前教育・保育について一番の課題は

- ・保育所は待機児童の解消
- ・京田辺市内、民間の幼稚園も含め園児が減少
- ・公立幼稚園は魅力ある幼稚園づくり

③幼稚園の預かり保育

幼稚園預かり保育実施要項あるが、預かり保育の内容については決まったものではなく、ALT、サッカー教室等、工夫されており、いろいろな遊びを含めて取り入れている。

(3) 委員間討議

- ・公立幼稚園は施設面・運営面・保護者との関わり方がそれぞれの園で違いすぎる
- ・市外の民間幼稚園への入園者が増加している中で、公立幼稚園8園が必要なのか
- ・幼稚園は各園、個性がある
- ・公立幼稚園は市内どこでも通園ができるように選択肢を設けるべき
- ・公立幼稚園は小学校との連携がよい
- ・民間幼稚園のように通園バス・給食・体操教室・音楽教室などを考えては
- ・公立幼稚園の預かり保育は最低限、施設面などのハード面は画一したものを保証すべき
- ・公立幼稚園の存在意義を考えるべき
- ・保護者会（PTA）の負担軽減を考えるべき
- ・3歳～5歳の幼児教育無償化が始まると、今よりも保育所・認定子ども園などに通われる家庭が増えるのではないのか

5. 総括

公立幼稚園が園児の減少になる理由として以下のことが考えられる

- ①共働き世帯の増加
- ②通園バス、給食、園でできる習い事などサービスが充実しているため、民間幼稚園（市外含む）への通園増加している
- ③幼稚園の運営に関わる保護者への負担（時間的拘束）が大きいこと

公立幼稚園の園児の減少をゆるやかにするには

- ①幼児教育の無償化をふまえて保育料以外の負担軽減を考えるべき
  - ②保護者の幼稚園運営への関わり方考えるべき
  - ③魅力ある幼稚園づくりを進めるべき
- 以上のことを早急に取り組む時期にさしかかっている。